

(共同リリース)

2024年 8月 22日

日本航空株式会社

株式会社セコマ

豊田通商株式会社

千歳空港モーターサービス株式会社

セイコーマートの店内調理「HOT CHEF」の廃食油を使用した バイオディーゼル燃料の通年運用を開始

～ゼロカーボン北海道の実現にむけた地産地消の取り組みを拡大します～

日本航空株式会社(本社:東京都品川区、以下「JAL」)、株式会社セコマ(本社:北海道札幌市、以下「セコマ」)、豊田通商株式会社(本社:愛知県名古屋市、以下「豊田通商」)、千歳空港モーターサービス株式会社(本社:北海道千歳市、以下「CAMS」)は、CO₂排出量削減への取り組みの一環として、新千歳空港に配備されている空港内作業車両であるトーイングトラクター^(※1)およびフォークリフトに通年でバイオディーゼル燃料(以下「BDF」)を使用する運用を7月15日(月)より開始しました。



バイオディーゼル燃料(BDF)専用タンク

この取り組みは、セイコーマートの店内調理「HOT CHEF」で発生する廃食油を、セコマグループの株式会社白老油脂でBDFに精製、精製されたBDFを豊田通商が配送・供給し、CAMSがJALの作業車両に給油を行うものです。2023年8月1日から2023年11月14日までの実証実験では、CO₂排出量を約6t削減^(※2)しました。しかしながら通年での運用は、厳寒期にBDFが燃料タンクの中で凍結し、品質に影響するおそれがあることから、BDFと軽油の混合燃料の使用や燃料タンクに温風装置を設置することで、凍結を未然に防ぎ、通年での運用が可能となりました。また、今回新たにBDF専用タンクを空港内に設置したことで、BDF使用対象車両を昨年の3台から11台に拡大することが可能になり、年間約54tのCO₂排出量を削減^(※3)できる見込みです。

(※1) 空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物運送用コンテナを牽引する車両。

(※2)(※3) いずれも軽油を使用した場合のCO₂排出量との比較。

実証試験では2,275LのBDFを使用、通年運用では、夏期2,300L/月、冬期は1,150L/月を想定。

- 【対象車両】・トーイングトラクター 9台 ※うち1台が4社のロゴが入った特別ラッピング車両
 ・フォークリフト 1台
 ・航空機牽引車 1台

【本格運用】2024年7月15日～通年(ラッピング車両の開始は8月22日～)



JAL、セコマ、豊田通商、CAMSは、持続可能なエネルギー利用によるCO₂排出量削減と地産地消による循環型エネルギーの取り組みを推進し、今後も地域や社会と連携して、地域の課題の解決に取り組んでまいります。